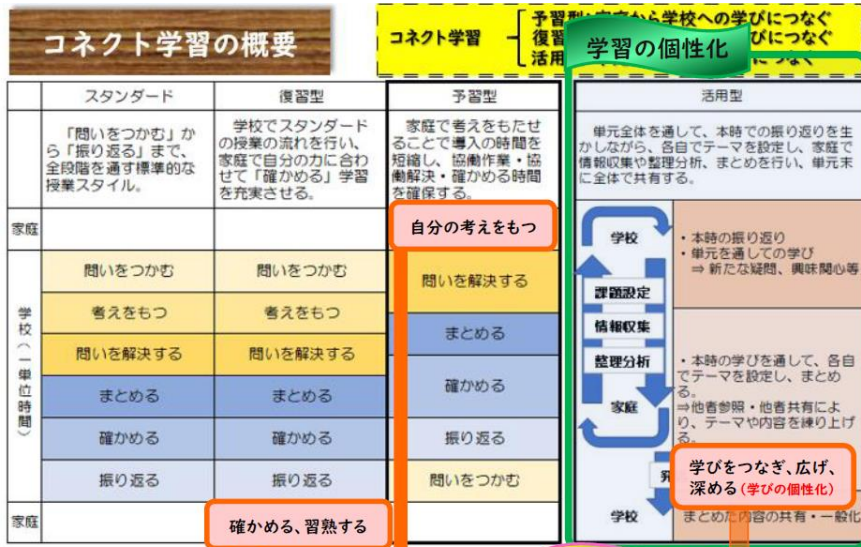


リーディングDXスクール事業【実践事例】

西米良村立村所小学校（宮崎県）

【取組内容①】 学校と家庭をつなぐコネクト学習の学びを活かした授業づくり

1人1台端末（持ち帰り端末）を効果的に活用したコネクト学習により学校と家庭をつなぎ、確実に学んだことを定着させ、児童生徒が主体的・協働的に学び合うことができる授業



主体的な学びや 確かめの充実

協働的な学びや 習熟・発展の時間の充実

指導の個別化

興味関心、自己表現・学習の深化の充実

ものが燃えるしくみ (小学6年)

【問いをつかむ段階】

指導計画（全8時間）

次	主な学習内容及び学習活動
第一次	<ul style="list-style-type: none"> ものが燃えるためには、何が関係しているのか、ものが燃えるしくみについて調べる。 缶の下の方に穴を開けるとよく燃えるのは、空気とどんな関係があるのかについて調べる。 <p>（コネクト学習活用型）</p> <p>※ 各自の興味関心に基づいたテーマを設定し、家庭で情報収集・整理分析、まとめを行い、単元末に全体で共有する。</p>

単元を通して取り組む課題を一人一人が設定する（コネクト学習活用型）

ものが燃える方と空気の動きだし、予想や仮説をもとに再現している。

線香やろうそくなどを目的正しく使って、空気の動きをみる。（行動観察）

【考えをもつ・問いを解決する段階】

電子黒板に投影しながら全体発表を行い、課題や共通点に気付かせることで、対話的で深い学びに繋がった。

学びの充実



児童はGoogleスライドを活用して学びを整理していた。教師が助言していくことで、児童は短い時間で修正を行うことができていた。

グループでの話し合いでは、話し合いマニュアルを活用し、発表・共有を図った。



【まとめる・確かめる・振り返る段階】

本村における焼却施設での燃焼の様子や施設インタビュー動画を視聴し、後日お礼の手紙をGoogleスライドで作成し渡すことで、本学習と日常生活での事象を結び付けさせ村民との対話的な学びの機会を確保できた。

振り返りをテキストマイニングし、児童の考えの傾向を共有することで、未来の社会貢献や将来の夢などについて児童同士の気付きや考えを深めることにつながった。

コネクト学習のねらい

【1人1台端末（持ち帰り端末）の効果的活用】

- ① 学びに連続性をもたせる
- ② 時間を効率的に使う
- ③ 主体性を高め、確実な学びにつなげる

